

リオ五輪イヤー 高まる意欲

【東京】幕別町出身で、8月のブラジル・リオデジャネイロ五輪マウンテンバイク（MTB）競技の日本代表入りが有力視される山本幸平（30）＝TREK FACTORY―国際自然環境アウトドア専門学校、帯農高出＝は19日、都内で開かれたファンクラブの決起・新年パーティーでインタビューに応じた。五輪イヤーのシーズン開幕を前に、昨季の葛藤を乗り越えた上での順調な調整ぶりを示し、3度目の五輪に強い意欲を見せた。

MTBアジア王者

山本 進化見せる 時が来た



「結果を残したい」とリオ五輪出場に向けて意欲を語る山本幸平（大賀章好撮影）

―2015年シーズンを振り返って。W杯と世界選手権に重きを置き、世界のトップ10入りを一番の目標としている。結果から言うと及ばず、逆に12年と比べて成績や競技感覚も満足できなかった。チーム（昨年1月に米国のSPECIALIZEDから同国のTREK FACTORYに）が変わったという環境変化で、自分の気持ちも上がればよかったが、海外に行っても

ハングリー精神が薄れたことは正直自覚していた。日本滞在で基礎に重点。そういう中でも、最低限の日本選手権優勝とアジア選手権で7連覇できたが、アジア人として世界のトップ10入りを果たすことを周囲も望んでいるし、自分も求めている。もう一度自身自身の感覚を研ぎ澄ますために、オフに今までは違うことに取り組んだ。

世界トップ10入りへ準備進める

―オフはどう過ごしたのか。久々にいいオフが過ごせた。いつもの海外合宿ではなく日本滞在だったが、いろいろな人の指導を受け、いろいろなことを試した。（自転車）乗り込んだというより、体の使い方、基礎に重点を置いた。気持ちの上でも昔の感覚が芽生えてきて、進化を見せる時が来たと思う。

―今週からシーズンが始まるが。最初のスペインのレース（20日）からは、リオ五輪選考のポイントにもつながる。その後は約2カ月間、トルコを拠点に国内レースなどに出場して一時帰国し、オーストラリアのW杯初戦に臨む。アジア選手権は8連覇が懸かっている。ドイツ、フランスのW杯の後、帰国し、全日本選手権の5週間後に、リオ五輪というスケジュールになる。

結果を残したい

―リオ五輪出場が決まれば、3度目の五輪になる。

最初の北京五輪は出られただけでうれしかった。ロンドン五輪はトレーニング過多で疲労がたまった中での出場で、逆にやり過ぎもいけないと感じた。国内では体を仕上げられないと、スイスから五輪入りしたのも、北京の経験があったから。3度目の五輪は、勝負のためのコンディショニングづくりができる。MTBを日本、アジアで広めたいという気持ちが根本にある。そのきっかけになる結果を残したい。

（原山知寿子）